

変化に立ち向かう 即応集団 新たな事業基軸の創出へ

株式会社KMC
代表取締役社長

般若克彦氏



進出し、トランスミッションの鍛造部品用の金型製造にも乗り出しました。

現在の売上高の構成は、建材向けが約4割、自動車向けが約4割と半々で、その他の新しい分野の開拓にも取り組んでいます。

－社名を刷新し本社移転－

新社名KMCに込めた思いとは。

「旭東マルチカutting・カンパニー」の意味で、切削のトップランナーになりたいとの思いを込めました。長年、金型を作ってきて、金属を削る技術の強みを生かし、今後さらに部品加工などへも幅を広げようと、何でも削れるマルチカuttingを社名に込めました。

創業の地から高岡市ICパークへ本社工場を新築移転されました。

今後の事業拡大を考えた時、元の工場が手狭になっており、会長とも意見が一致して新築移転を決めました。最新鋭の大型マシニングセンタなども導入し、生産能力は1.5倍になりました。

何より、社員が安全に安心して働ける環境整備に主眼を置きました。ここで働きたい、また、我が子を入社させたいと思う工場を目指して新築しました。

新たに乗り出された事業分野について教えてください。

金属加工の工作機械には大きく分けてNC旋盤とマシニングセンタがあります。現在は自動車向けに用いている旋盤加工で、新たな事業の柱を育てようと、建設機械向けの金型加工を始めました。この仕事は比較的軽い材料を扱うので、若い人や女性でも作業がしやすいというねらいもあります。

また、新型コロナウイルスの混乱期には

自動車向けの受注が止まり、建材向けのマシニングセンタだけが動く状態を経験し、マシニングセンタでできる分野も増やそうと、半導体製造装置向けの部品加工も始めました。新しい大型機械を導入したところ、操作も簡単になっており、若手への技能伝承もスムーズに行えるメリットもありました。

－体制整備と工場のDX化－

2代目として会社を継承され、5年が経ちました。

2016年に入社した際、社員のコミュニケーションが少ないと感じ、さらに、当時社長だった父は、創業以来、経営の全てを強い思いで引っ張ってきたので、社員はその指示に従うという感じでした。社員がもっと自発的になれば良いなと思いました。

私は技術的なことは分かりませんでしたでしたが、前職が公認会計士で、顧問先のヒアリングなどを行ってきたので、若い社員を中心にどんなことをやっているのかを教えてもらう一方、人に分かりやすく伝える話し方や、報告書、改善提案書の書き方などをアドバイスしてきました。全社員を対象にした年4回の面談も行ってきました。しかし、なかなか経営側の思いが伝わらないと感じ、気がつくとも私も細かいところまで指示を出すよう

になっていました。

コロナ禍となった時に、思い切って幹部社員の若返りを図り、現場スタッフの感覚に近い人を登用し、私の考えも組織として部署ごとに下ろすようにしました。また、工場を建設した際の縁で、大手メーカーOBの方に顧問に入ってもらい、適切なアドバイスをいただいています。組織のあり方や、社員のマインド醸成など、会社の雰囲気も徐々に改善し、これまでできていなかった“当たり前のこと”がちゃんとできるように変わってきたように感じています。

会社の事業も体制も大きく変革されていますね。工場のDX化にも取り組んでいらっしゃるそうです。

生産現場にIoTを導入してムダやムラを解消できないかと考えていたところ、富山県アルミ産業協会の仲立ちで3年前から富山県立大学の岩本健嗣准教授と連携し、工作機械の稼働状況をセンサーでモニタリングしています。

これまでは、計画通りに行かなかった時に「忙しかったから」「気をつけます」といった漠然とした答えしか返ってこなかったのですが、1日の稼働状況が数値化して見えるようになると、自らの作業を振り返って検証し、対策を打つことができるようになりました。

今は、機械ごとにスケジュール表を貼り付けて、担当者が前日の稼働データを確認した上で、自分で1日の段取りを決め、予定を書き込むようにしています。若手社員などは、初めてやる仕事が不安に感じたら前もって先輩社員に聞きに行くようになりました。センサーを使った実証実験として始めたのですが、今ではなくてはならないツールになっています。

今後の計画を教えてください。

これまでは金型屋でしたが、色々な業種の部品加工にもチャレンジしていきたいと思っています。経営の安定化に加えて、女性オペレーターなど多様な人材が働ける会社になるためにも必要です。

新しい分野になると当然、設計内容や材質の変更も多いと思いますが、変化の大きいところで鍛えられて、技術も風土も世界基準についていく会社になりたいと思っています。「変化を、進化に。」と掲げて前進していきます。

座右の銘を教えてください。

「焦らず、慌てず、諦めず」です。この会社に入った時、専門知識がなく分からない中で、この言葉を唱えて頑張ってきました。この気持ちで常に新しい事に挑戦していきたいと思っています。

会社概要

株式会社KMC

創業：1981(昭和56)年5月

所在地：高岡市ICパーク11-2

資本金：3,290万円

事業内容：アルミ押出用金型製作、
自動車部品用鍛造金型製作

従業員数：32名(2022年11月現在)

URL：https://kmc-t.co.jp/



略歴

1981(昭和56)年8月生まれ、高岡市出身。2004年慶應義塾大学商学部卒。公認会計士として監査法人勤務を経て、2016年(株)旭東機械製作所(現KMC)に入社、2017年8月から代表取締役社長。

今年9月に旭東機械製作所から社名変更し、本社工場も新築移転されました。沿革をお伺いします。

1981年に現会長である父、般若隆が(株)旭東機械製作所を創業し、汎用旋盤を主とした工作機械の設計製造を始めました。

しかし、当時はコンピューター制御のNC旋盤の普及が急速に進んだ時期で、機械を作る側から、

機械を使って金属を加工する仕事への転換を図り、86年からアルミ建材の押出用金型や加工用補助工具の製造を始めました。当社独自の溶断加工機も導入し、100mmを超える厚い難削合金の加工も短時間でできるようになっています。

一方で、2000年頃から日本の住宅着工数が伸び悩み始め、建材以外の柱も持ちたいと自動車分野に